

連携型

小学校と中学校はそのままで、
教員や子どもが交流するスタイル

【モデル中学校区の授業・活動から】

事例1 中学校の先生が小学校で授業

インタビュー① 第三中学校教諭 池田 繁人さん

これまでも第三中学校区では、中学校の教員が小学生に教えることはありましたが、小学校の先生と一緒にTTで、しかも小学校の先生と授業を考え、何回も小学校に行き授業をしたのは初めてでした。子どもの反応も良く、楽しかったです。小学校に何度も足を運んだので、子どもたちや先生方の顔や名前もたくさん覚えました。

「中学校から小学校へ行って教えるのは大変ですね」とよく言われますが、私は大変だとは思っていません。子どもを教えるのは小も中も同じですし、目の前の6年生は私たちの中学校へ来るわけですから…。これからも、小中の橋渡しの役割ができたと思っています。

中 学校の教員が小学校の算数の授業をした実践を紹介します。卒業を間近に控えた6年生を対象に行いました。

算数は、積み上げの教科といわれ、小学校で付けた力が十分でないと、中学校へ行って苦労することになります。中学校では、基本的な四則計算の力が十分でないと、中学校の授業についていけない子どもがいることが分かっています。そこで、今回、かけ算の筆算に注目し、指導をすることにしました。



池田先生が三条小学校で6年生の担任と一緒に授業の様子

TT授業とは？

複数の教員が教えることを「チーム・ティーチング」といいます。その頭文字をとって、「T・T(ティーティー)」と呼ばれます。授業は、一人がメインの先生となって進め、もう一人がサブの先生として児童生徒の個別の支援にあたることが多いようです。今回の2つの授業は、中学校の教員がメイン、小学校の教員がサブとして授業を進めました。

- ☆ 小中一貫教育推進コーディネーターの指名
- ☆ 中学校区及び方マニュアルの作成と小中合同研修会（授業研究）の実施
- ☆ 小中共同学校通信の作成および配布
- ☆ 中学校区の経営理念などの設定や推進組織の設置
- ☆ 中学校区の年間行事などの計画の作成



先進地事例紹介

～ 広島県呉市のモデルケースから～

呉 市では、平成18年度現在、同じ敷地内や隣接した小・中学校を除き、三条市でいう連携型（小中一貫教育実践校）が進められています（5つの中学校区は、小中一貫教育校と呼ばれ、平成23年4月には施設一体型の小中一貫校も完成予定です）。小中一貫教育校に比べ、連携型の小中一貫教育実践校の場合、各中学校区でできる内容から進めています。

はじまる 小中一貫教育 その②

～三条市は連携型からスタートします～

小中一貫教育3つの型

連携型
一体型
併用型

「小中一貫教育」には、3つの型があるんだよ。その3つとは、「連携型」「一体型」「併用型」のことを指すんだ。第一中学校区と第三中学校区をモデル中学校区に指定した三条市は、まずは、「連携型」からスタートし、それぞれ、一体型（第一中学校区）、併用型（第三中学校区）も目指して進めていくんだって……。

前

回は、「中一ギャップ」の説明と三条市にみられるその状況（いじめ・不登校の増加や中学校入学後の学力低下など）、また、「中一ギャップ」の解消を目指す「小中一貫教育」の概要について紹介しました。さて、今回は、「小中一貫教育」の【3つの型】と、市内で先行的に行われているモデル中学校区の実践を紹介します。



一体型

1～9年生（小1～中3）
が、一つの校舎で学ぶスタイル

【先進地事例紹介】東京都品川区 日野学園

施設一体型の小中一貫校として、平成18年度に日野学園は開校しました。1年生～9年生まで、930人あまりの児童生徒が通っています。校長、教頭以下小中教員などは総勢約80人が勤務しています。

【日野学園の特徴的な取り組み】

子どもの発達に即して、9年間で
4（前期）・3（中期）・2（後期）のまとまりで

- ①《英会話の時間》
→1年生から実施。独自教材を開発し実践
- ②《5年から教科担任制》
→中学校籍の教員が小学校でも授業
- ③小中学生合同の諸行事
→「入学式」（1・7学年〈小1・中1〉合同）や「運動会」（1年～9年を3色の縦割りチームに編成し競技）



小中一貫教育推進協議会とは

学校、地域、保護者などをメンバーとし、各中学校区ごとに設置。モデル形態、施設・設備の在り方などについて検討し、総合的にその中学校区の計画を作成していく。下部組織の地域連携部会は、市民の意見を広く受けとめていくため、誰でも参加できるオープンな会議としている。

インタビュー③ 第一中学校区小中一貫教育推進協議会 副会長（四日町小学校PTA会長）武田 昇さん

小中一貫教育の導入にあたり、保護者・地域・学校が、力を合わせて、子どもたちのために教育環境の整備について知恵を出し合い考える場が、各中学校区の小中一貫教育推進協議会だと思っています。

第一中学校区は、連携型から始めて将来的に一体型への移行を視野に入れた検討を行っていくわけですが、学区や通学距離、現在の校舎の老朽化など越えるべきハードルがいくつかあると感じています。スクールのバス運行基準などは、知らない人が多く、市から詳しい基準などの内容についても情報提供をしてもらいながら、地域連携部会で保護者、地域と学校、市が双方向で意見を交換し、みんなの不安を解消していく必要があると考えます。

子どもたちの目にも、私たち大人がいかがみ合うのではなく協力し、「和」をたもった中で建設的な話し合いを進めていく姿を見てもらうことが大事なのではないでしょうか。最終的には、「子どもたちのために」、そのためだけに、力を注いでいくことが我々の役目だと思っています。

併用型

小学校の5・6年生が、
中学校の校舎で学ぶスタイル

【先進地事例紹介】京都府京都市 御池中学校区

京都市では、5つの中学校区で「小中一貫教育」が進められています。平成19年度から実施している御池中学校区は、2つの小学校の6年生が、中学校の校舎で学ぶ、「施設併用型」が特徴です。平成23年4月には、施設一体型の小中一貫校も完成予定です。

【御池中学校区の特徴的な取り組み】

子どもの発達に即して、9年間で
「6・3制」から「5・4制」へ

- ①《小中T T授業》小学校6年へ中学校教員が入る
→英語・理科・音楽・図工で実施
- ②《理科及び総合・生き方探究教育》
→小3～中3までのカリキュラムの作成
- ③人間関係の力をつくり出す小中学生の異学年交流活動
→「6・9学年」交流授業や「合同修学旅行」

ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って
ちよくと質問。小中一貫教育推進協議会って

事例2 6年生が中学校で授業

事例1と違って、3つの小学校の児童が中学校に集まって、英語授業を受けた実践を紹介します。3つの小学校の6年生は、3つのクラスに分かれ、違う小学校の友だちと一緒に学習をしました。授業者は、中学校の教員3人と小学校6年の担任です。2人組になって、T Tの形で授業をしました。

下の円グラフから分かるように、9割以上の児童が「楽しかった」と好意的にとらえています。また、このような授業を年に1回以上したいと答えた6年生は、95名で、さらに3回以上してほしいと答えた児童は64名（約3人に2人）もいました。

この授業は、いろいろな意味で画期的だったと思いますね。子どもたちの感想から、喜んでいたり、内容がよく分かったことがわかります。授業を行うために、授業関係者10人で打ち合わせをする、T Tの授業者が何度も連絡を取り合う、3つの小学校の6年生が中学校に集まるなど、今までにない苦労はありましたが、それを越えた成果は確かにあったと実感しています。これからは、同じ教科で1回だけでなく、何度か交流を続けていくような授業を進めていけたらと考えてます。

インタビュー② 上林小学校教諭

太田哲也さん

この授業は、いろいろな意味で画期的だったと思いますね。子どもたちの感想から、喜んでいたり、内容がよく分かったことがわかります。授業を行うために、授業関係者10人で打ち合わせをする、T Tの授業者が何度も連絡を取り合う、3つの小学校の6年生が中学校に集まるなど、今までにない苦労はありましたが、それを越えた成果は確かにあったと実感しています。これからは、同じ教科で1回だけでなく、何度か交流を続けていくような授業を進めていけたらと考えてます。

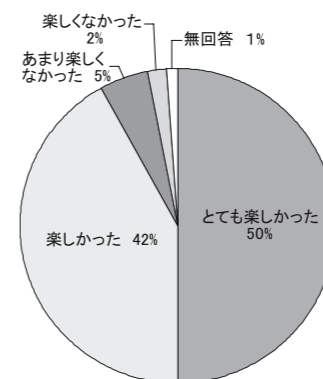


表1 中学校の先生との英語授業の感想

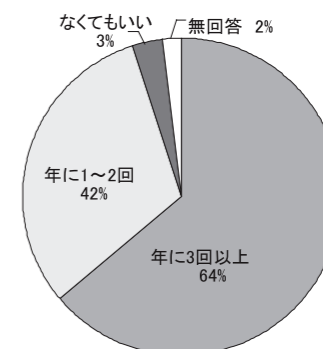


表2 中学校区の小学生と一緒に学習することについて

アンケートの感想にこんなことが書いてあったよ
・好きなものを英語でいえるようになって良かったです。
・中学校の先生の発音のうまさに驚きました。

アンケートの感想にこんなことが書いてあったよ
・英語が良く分かったし他の学校の人と話ができて良かったです。
・他の学校の人たちと一緒に学習することは今までなかったから、最初は不安だったけど、やってみたら楽しかったです。



インタビュー④ 行政の声 教育長が期待する教育の在り方

教育長に聞いた。小中一貫教育のこれからの課題と対策は？

小中一貫教育の導入に向かって、モデル校の第一中学校区、第三中学校区では「小中一貫教育推進協議会」が組織され、その第一歩を踏み出しました。

三条市の児童生徒は、各学校の先生方の真摯な努力と家庭・地域の温かいご協力、ご支援のもと、落ち着いた学習や諸活動に励み、着実に成長しています。しかし、学力調査やいじめ・不登校の実態などから、まだ指導法や環境面などに改善の余地があるといえます。三条市の児童生徒はさらにたくましく大きく伸びる力を秘めています。それを学校・家庭・地域・行政が一体となって最大限に引き出すのが、私たち大人の役

目であり、そのひとつの手だてが「小中一貫教育」の導入です。

「小中一貫教育」具現の中核となるのは、小学校と中学校の先生方が共通意識を持って取り組む意欲と体制づくりです。それぞれのモデル校区の先生方は、「推進協議会」設立後直ちに全体研修会や共同授業・共同活動部会を開き、情報交換や今後の計画などについて前向きな話し合

いを活発にされ、具体的に活動されていることは大変心強く思っています。しかし、毎日の授業や業務に支障が生じるような過度の負担を先生方にかけてはなりません。先生方の研修や授業の手助け、補充のために市としても、4人の嘱託指導主事、15人の常勤講師を採用し、各学校に配置し精一杯の支援をしていきます。

次に家庭・地域の皆さんから、三条市の児童生徒のよりよい成長を目指す小中一貫教育へのご理解とご協力をいただくことが最も大切です。これまでに、PTA・地域の代表などの方々から各検討委員会、推進協議会の委員として貴重なご意見など



三条市教育長 松永 悦男

学 校・家庭・地域・行政が一体となって取り組んでいくことが最も重要

三条市農業活性化プランは3年計画

今後の農業振興を図るため、三条市食育の推進と農業の振興に関する条例に基づき「三条市農業活性化プラン」を4月に策定しました。プランでは重点的に行う事業や農業者のほか、事業者や消費者の役割を定めています。

問い合わせ 農林課農政係 管内線221



- 1 農産物の高付加価値化**
 売れる農産物を生産するために、農産物の高付加価値化を目指します。
 農産物のおいしさを定めた「三条版高品質農産物生産基準」を作成します。
 また、地場産農産物を活用した加工品を開発します。
- 2 販路開拓**
 農業者自らが市場の動向を把握した販売戦略をサポートします。主な取り組みとしてICT利活用による「にっぽんe物産市」事業や国内外の物産展へ参加支援・食品産業異業種・異地点間と連携した農産物の供給、交流を進めます。
- 3 人材育成**
 意欲ある地域農業の担い手を育成します。このため、認定農業者に対する支援活動やグリーンツーリズムを活用した楽農希望者などの受入体制を整備します。
- 4 地産地消**
 地域全体で地場の農産物愛用し、地域内で農産物消費を拡大する地産地消運動を進めます。

- しみん市や直売所での農産物利用が拡大するように支援し、学校給食での地場産農産物の利用を拡大します。
- 5 食育推進**
 安全な地元農産物の生産と消費を推進し、米を中心とした日本食を普及します。
 学校教育田活動の充実と豊富な種類の農産物を活用した日本食を普及させるため、地場農産物利用料理教室の開催を支援します。
- 6 環境保全**
 環境保全を重視した農業を進め、バイオマス資源を利活用する社会形成を目指します。
 計画では高品質堆肥づくりや環境にやさしい農業を行う農業者の育成、田んぼの生き物調査活動を支援します。

- 皆さんにも広く情報を提供します。
- 2 市民**
 市民の皆さんからは、農業が担う自然環境保全の重要性を理解していただきます。特に農地への瓶、空き缶などのごみのポイ捨ては厳禁です。
 健康的な食生活を守り、農業の生産活動を継続してもらうためにも、地場産農産物の優先的購入や農業者との交流に参加していただきます。
- 3 農業者・団体**
 安心・安全でおいしい農産物の生産に貢献していただきます。農業経営を継続させるためにも高付加価値化や販路開拓に積極的に取り組めます。
- 4 事業者**
 農業の活性化を理解してもらい、農産物の地域内流通、消費の拡大に取り組めます。このため、地域の特性を生かした加工品の開発、流通体制を築いていただきます。

1 市
 このプランの周知と実施に向けて、農業者、関係団体、事業者と連携して取り組みます。市民の

関係者の役割